

品川歴史館の庭園

3_01_01

茶室 しょうてきあん
松滴庵

松滴庵は、1920年代後半頃、安田財閥やすだの安田善助氏ぜんすけが邸宅内ろくそうあんに六窓庵（現在の東京国立博物館内の茶室）を手本にして建てた茶室です。

松滴庵では高橋是清たかはしこれきよ、藤原銀次郎ふじわらぎんじろう、根津嘉一郎ねづかいちろうなど戦前の政財界の著名人を招いて茶会が開催されたといわれています。昭和60年(1985)の品川歴史館の開設にあたり、歴史的に貴重な茶室をそのままの形で残しました。

3_01_02

すいきんくつ
水琴窟

水琴窟とは、底部に穴を開けた甕かめを天地逆にして地中に埋め、その中に水滴を落とし、甕の中で反響する水音を楽しむものです。その歴史は江戸時代まで遡るといわれています。

安田善助邸の水琴窟は長らく忘れられていましたが、昭和55年(1980)、品川歴史館建設の際に再発見されました。穴の周りに水を滴らして、竹筒を耳にあてて優雅な水琴窟の響きを聴いてください。

なお、館内にはボタンを押すと水琴窟の音色が再生される模型があります。

3_01_03



たてあな
竪穴住居跡（復元）

品川歴史館の建設時に、5世紀末から7世紀末に営まれた住居跡が多数発見され、それらを含む遺跡はおおいかしま大井鹿島遺跡と名づけられました。

地面を掘りさげて床にしている、そこには4つの柱を立てる穴とカマドがあります。